2022年におけるベトナムの社会経済情勢概観

国際・国内情勢

2022年のベトナムの社会経済は、急激で予測不可能な変動を伴い、世界経済の高い不安定性の中、大きな課題をはらみつつ推移した。インフレ率は過去数十年で最高水準に上昇し、各国は金融引き締めを余儀なくされた。大国間の戦略的・地政学的競争、ロシアとウクライナの紛争、自然災害、伝染病、暴風や干ばつなどの気候変動などは、金融・通貨市場、エネルギー、食糧安全保障に対するリスクを世界的に増大させた。

国内では、2022年の社会経済目標、および第13回ベトナム共産党大会決議で定められた2021-2025年の社会経済目標を達成する勢いを作り、経済を回復・発展させる決意をもって、政府と首相は、金融・財政政策および適切なマクロ的解決策を迅速に出すため、世界各国の情勢と政策姿勢を注意深く監視するよう各省庁および地方に指示した。社会経済の回復と開発計画に関する政府決議第01号/NQ-CP、政府決議第02号/NQ-CP、および政府決議第11号/NQ-CPの任務と解決策は、同時に大規模かつ積極的に実施された。そのため、ベトナム経済は力強く回復し、マクロ経済は安定し、インフレは抑制され、主要なマクロ経済バランスは確保された。ビジネス投資環境の改善は、社会経済の回復と発展につながり、国民と実業界への信頼と支持をもたらした。多くの経済部門は、Covid-19のパンデミック前よりも高い成長率となった。2022年の経済部門の成果と活動は以下の通りである。

I. 2022年の社会経済的成果

2022年の国内総生産（GDP）推計値は、経済の緩やかな回復もあって前年比8.02%増となり、2011年から2022年までの間で最高の伸びとなった[1]。この成果は、政府および首相の行政・管理政策の有効性と経済を成長軌道に戻すための実業界の努力を示すものである。

1. 経済成長とマクロ経済バランス

2022年の経済成長率は前年比8.02%に達した。経済全体の付加価値合計の成長率において、農林漁業は3.36％増加し、5.11％の寄与、工業・建設業が7.78％の増加で、38.24％寄与、サービス業は9.99％拡大し、56.65％の寄与となった。

---

[1] 2011年から2022年のGDPの成長率（訳注: 経済成長率）は、2011年が6.41%、2012年が5.50%、2013年が5.55%、2014年が6.42%、2015年が6.99%、2016年が6.69%、2017年が6.94%、2018年が7.47%、2019年が7.36%、2020年が2.87%、2021年が2.56%、そして2022年が8.02%だった。

2022年のGDPを支出面からみると、最終支出は前年比7.18％増で経済成長率に53.67％寄与、総資本形成は 5.75％増で 24.59％の寄与、財・サービスの輸出は 4.74％の増、財・サービスの輸入が 2.77％増となり、財・サービスの貿易収支は 21.74％経済成長率に寄与した。

農林漁業部門の生産高は、2022年も引き続き経済の下支え的役割にあることを明確に示している。例えば質量ともに高まる国内消費、輸出用に食料や糧食を供給することや、国を支える多くの重要な産業部門に、投入財を同時に供給することなどである。2022年の稲の作付面積は 710 万 9,000 ヘクタールで、生産構造や土地利用目的の変化により前年に比べ 1.8%減少した。稲の単収は 60 キンタル／ヘクタールと推定され、前年比 0.6 キンタル／ヘクタールの減少となった。水稲産出量は 4,270 万トンとなり、前年に比べ 120 万トン減少した。林業と漁業の生産活動は良好な結果を残した。そのうち木材生産量は 2,060 万 m^3 で前年比 9.3％の増加、水産養殖業の生産量は 523 万 3,800 トンで前年比 7.1％の増加となった。漁獲高は387万4,200トンで1.6％の減少、漁業輸出高は109億2000万USドルで過去最高を記録した。

工業・建設業部門では、企業は労働力、生産を増やし、前向きに取り組み、困難を克服して生産回復と拡大する事業計画をたてた。製造業は 8.10％増と引き続き経済を牽引し、経済全体の付加価値総額に2.09ポイント寄与した。上水道、下水道、廃棄物管理および修復活動は6.88％増加し、0.04ポイント寄与した。電力供給・配電は7.21%増で、0.27%ポイント寄与した。鉱業・採石業は5.45％増で0.18ポイント増。建設業は8.21％増で、0.59ポイント増であった。

サービス部門は回復し、力強い成長を遂げ、2022 年の成長率は 9.99%で、2011 年から2022 年の期間で最高となった[2]。急成長を遂げ、2022 年の経済全体の付加価値総額に大きな割合を占めた市場サービス業は以下の通りである。卸売・小売業は 10.15％の成長率で寄与度は0.97パーセントポイント、運輸・保管業が11.93％の成長率で、寄与度は0.69パーセントポイント、宿泊・飲食サービス業が 40.61％とサービス業で最も高い伸びを示し[3]、0.79 パーセントポイントの寄与度であった。また金融・銀行及び保険業が 9.03％の成長率で0.53パーセントポイントの寄与度、情報通信業が7.80％で0.5パーセントポイントの寄与度であった。特に、保健衛生及び社会事業は7.6%減少し、0.13パーセントポイントの寄

[2] 2011年から2022年におけるサービス業の付加価値額の対前年比成長率は、2011年が7.65%、2012年が7.03%、2013年が6.82%、2014年が7.31%、2015年が7.05%、2016年が7.46%、2017年が7.12%、2018年が7.46%、2019年が8.08%、2020年が2.01%、2021年が1.57%、そして2022年が9.99%であった。

[3] 宿泊・飲食サービス業の付加価値額は2021年に対前年比で20.21%減少した。

与度減少となった。これは、Covid-19 のパンデミックが収束したため[4]、2022 年の疾病予防・管理に対する前年比支出が減少したためである。

成長の質ならびに経済効率の改善

- 一人当たり名目 GDP は常に前年を上回っていた。2022 年には一人当たり 4,109US ドルとなり、前年比 392US ドルの増加となった。2022 年の名目 GDP は 9 兆 5,133 億 VND（4,090 億 US ドル相当）に達したが、2021 年のこの数字は 8 兆 4,797 億 VND（3,661 億 US ドル相当）であった。

- 2022 年の当年価格における経済全体の労働生産性は、労働者一人当たり 1 億 8,800 万 VND（労働者一人当たり 8,076US ドルに相当し、2021 年の値より 615US ドル高い）と推定された。固定価格では、労働者の資格の向上により、2022 年の労働生産性は 4.8％増加した（2022 年の学位・修了証書を持つ訓練労働者の割合は 26.4％に達し、2021 年の 26.1％を上回った）。

- 輸出入活動は、2 年間の Covid-19 のパンデミックによる影響の後、回復に努めて新記録をもたらした。強調されるのは、これが経済の開放度を維持するのに貢献し、2023 年に向けて経済が確かな一歩を踏み出すための重要な前提となったことである。2022 年の財・サービスの輸出入総額は対 GDP 比で 185.73％となり、2021 年の 186.4％を下回った。

- 2022 年の GDP の産業別構成は、農林漁業が 11.88%を占め、工業・建設業が 38.26%、サービス業は 41.33%、そして純間接税が 8.53%を占めた。

2. 財の輸出入

世界経済は多くのリスク、不確実性、および世界貿易の減少を伴っている状況であるが、ベトナムは 2022 年の財の輸出入において素晴らしい成果を達成した。

財の輸出入総額は高い成長率を維持しており、これは Covid-19 感染拡大の複雑な展開にあった経済に光明をさした。2022 年、商品の輸出入総額は 7,302 億 US ドルに達し、前年比で 9.1％増加となった。

2022 年の財の輸出高は（速報値）は 3,713 億 US ドルに達し、前年比で 10.5%増となった。そのうち、国内経済部門は 953 億 7,000 万 US ドルに達し、前年比で 6.81％増加した。これは輸出総額の 25.7％を占めている。外資（FDI）部門（原油を含む）は 2,759 億 3,000 万 US ドルに達し、前年比で 11.8％増加し、輸出総額の 74.3％を占めた。

[4] 保健衛生・社会事業の付加価値値額は 2021 年に対前年比で 41.01%増加した。

輸出品目の構成では、加工工業製品類の割合が最も大きく、輸出総額の 89.6%を占めた。加工工業製品類の輸出は前年比 10.47%増の 3,324 億 4,000 万 US ドルに達した。電話機及び部品は輸出高が多く、2022 年は 579 億 9,000 万ドルで、前年より 4 億 6,380 万ドル増加した。

2022 年の財の輸入高（速報値）は 3,580 億 US ドルに達し、前年比で 7.8%増となった。そのうち、国内経済部門は 1,250 億 7,000 万 US ドルで、前年比 9.8%の増、輸入総額の 35%を占めた。外資（FDI）部門は 2,330 億 2,000 万 US ドルとなり、前年比 6.7%の増加、輸入総額の 65%を占めるに至った。

輸入品目の構成については、資本財類が輸入総額の 88.1%と最も多くの割合を占めており、速報値で 3,162 億 2,000 万 US ドル、前年比 6.9%の増となった。電子機器・コンピューター及び予備的部品も 2022 年に多くの輸入高があり、818 億 8,000 万 US ドルで前年から 63 億 4,000 万 US ドルの増加となった。

2022 年の財の貿易収支は 124 億 4,000 万 US ドルの貿易黒字であった。ベトナムはこれで 7 年連続貿易黒字を達成した国となった。Covid-19 の感染禍による深刻な影響と続く多くの困難、そして世界経済の不確実性があったにもかかわらず貿易黒字を継続的に維持してきた。

II. 発展志向的国家による成果

1. 企業の登記状況

社会経済の回復と発展計画に関する政府の決議と政策が施行されると、ベトナム経済は回復の明るい兆しを見せた。その結果、2022 年の新設企業は増加し、市場から撤退する企業の数が市場に参入する企業の数を下回った。

2022 年、全国で新たに登記された企業は 14 万 8,500 社、登記資本総額は 1,590 兆 9.000 億 VND、登録従業員数は 98 万 1,300 人であった。前年比で登記企業数は 27.15%増加、登記資本総額は 1.3%の減少、登録従業員数は 14.9%の増加となった。2022 年の新設企業の平均登記資本額は 107 億 VND に達し、前年比で 22.3%減少した。5 万 400 社の増資による追加登記資本金 3,172 兆 7,000 億 VND を含めると、2022 年の経済への追加登記資本金の総額は 4,763 兆 5,000VND となり、前年に比べ 15.2%増加した。2022 年に新たに設立された企業および再操業企業の総数は 20 万 8,300 社に達し、前年比で 30.3%増加した。月平均では、新設・再操業企業数は 1 万 7,400 社となった。

2021年12月31日現在、生産・営業実績のある操業企業について、71万8,700社となっており、2020年の同時期に比べ5%増加、従業員は1,480万人に達し、2021年同期に比べ0.7%増加した。また生産・営業実績のある操業企業平均生産・経営資本は10.1%増加した。

2022年12月31日現在、全国には、平均1,000人で操業している企業が前年同期比3.5%増の9社存在した。

2. 投資

2022年に実現した社会への投資資本額（当年価格による）は、前年比で11.2%増加した。これは2020年と2021年を大幅に上回っており、経済の緩やかな回復と資金需要の増加を反映している。ベトナムで実現した海外直接投資総額はおよそ224億USドルで、13.5%増加し、過去5年間で最高であった[5]。しかし、このうちの登記資本総額は193億USドル（2022年）で、24.6%減少した。これはベトナムに入る外資が、世界経済の苦境による影響を受けていたことの表れである。

2022年に実現した社会への投下資本額（当年価格による）は3,219兆8,000億VNDとなり、前年比で11.2%の増となった。このうち国家部門の投資は824兆7,000億VNDで資本総額の25.6%を占める。これは前年比で14.6%の増加である。非国家部門の投資は1,873兆2,000億VNDで資本総額の58.2%を占め、前年比で8.9%の増加となった。また外資部門は521兆9,000億VNDの投資額となり、全体の16.2%、前年比で13.9%の飛躍的な増加となった。

2022年12月31日現在、新規登記資本金、修正登記資本金、海外投資家による出資と株式購入額を含むベトナムへの外資の投下資本額合計は293億USドルに達し、前年比24.6%増となった。そのうち、2,169のプロジェクトが新たに認可され、登記資本金は約130億USドルとなった。新規プロジェクト数では前年比19.3%増、それらの登記資本金は前年比で31.3%減となった。2022年の実現した対越海外直接投資は224億USドル近く、前年比で13.5%増と推定される。

2022年、ベトナムの対外直接投資において、新たに認可された117のプロジェクトのベトナム側登記資本総額は4億4,400万USドルであった。このうち、31のプロジェクトが資本調整を行い、追加の総資本調整額は1億5,530万USドルであった。これにより、ベトナムの対外直接投資総額（新規に認可されたプロジェクトと過年度に認可されたプロジェクトの増資）は5億9,930万米ドルに達した。

---

[5] 2018年から2022年までの外国直接投資（FDI）の実行額は次の通りであった。2018年が191億USドル、2019年が203億8,000万USドル、2020年が199億8,000USドル、2021年が197億4,000USドル、2022年が224億USドルであった。

3. 銀行、保険および証券市場

2022年、世界的なインフレ圧力が高まる中、ベトナム国家銀行はマクロ経済を安定させるため、国際情勢に合わせて金利を調整した。保険事業は安定し、顧客の利益を確保した。世界的に株式市場が景気後退の影響を受ける中、国内株式市場の株価も下落した。

2022年12月31日現在、総流動性の前年比成長率は6.2%（2021年は10.7%）、うち金融機関からの資本動員は8.3%（2021年は10.3%）増加、経済の信用成長率は14.2%（2021年は 13.6%）となった。ベトナム国家銀行は、マクロ経済パフォーマンス、インフレーション、金融市場の動きに合わせて金利を安定的に調整した。ベトナムドン（VND）建ての預金金利は、3か月から12か月の定期預金で年4.20%から6.68%、12か月超から24か月の定期預金で年6.84%、24か月超の定期預金で年6.72%であった。

2021年には、1,654万6,800人が社会保険に加入し、前年に比べ2.4%増加した。健康保険の加入者は8,883万7,200人が健康保険に加入し、前年比で1%増加した。

2021年の保険収入総額は477兆3,000億VNDで前年比0.6%減、保険支出総額は348兆3,000億ドンで前年比7.7%増、うち健康保険支出は90兆7,000億VNDで前年比19.1%の減となった。失業保険支出は前年比2.7倍の47兆4,000億VNDとなった。

2022年におけるベトナムの証券市場の発展は困難に直面した。また複雑なインフレ抑制を目的とした主要国の金融引き締めの傾向や世界経済の減速リスクにより、国際市場の変動から大きな圧力を受けた。2022年の株式時価総額は5,226兆6,000億VNDに達し、前年から32.7%の減少となった。

4. ベトナムを訪れる外国人観光客

ベトナムは2022年3月15日に、COVID-19対策を柔軟かつ安全に運用しながら公式に国境を再開し、観光業の回復に向けた推進力を生み出した。その結果、2022年には、前年と比べてベトナムを訪れる外国人観光客の数が大幅に増加した。

2022年の訪越外国人数は366万1,200人で、2021年の23.3倍となった。そのうち、空路で到着した旅行者は327万7,200人で、ベトナムに訪れた外国人総数の89.5%を占め、2021年の 29.5倍となった。陸路で到着した旅行者は38万900人で、訪越外国人総数の10.4%を占め、前年比 8.4倍となった。水路で到着した旅行者は 3,100 人で、訪越外国人総数の0.1%を占め、前年比5.1倍であった。

アジアからの訪越者数は259万5,800人で、2021年の19.5倍であった。ヨーロッパからの訪問者数は50万8,400人で前年比31.8倍、アメリカからの訪越者数は38万8,900人で、前年比67.6倍となった。オセアニアからの訪越者数は15万6,600人で、前年比125.2倍、アフリカからの訪越者数は1万1,500人で、前年比8倍となった。

5. 物価指数とインフレーション

インフレーションは抑制され、2022 年の消費者物価指数（CPI）の平均上昇率は前年比で 3.15％にとどまり、国会が設定した目標を達成した。これは不安定な世界経済動向の中で、インフレーションの抑制に成功し、マクロ経済の安定に貢献したベトナムの大きな成果である。

2022 年は前年比平均で消費者物価指数（CPI）が 3.15％上昇し、世界経済が多くの困難や課題に直面し続ける中で国会が設定した目標を達成した。このような好結果を得るため、政府は各省庁や地方自治体に対し、社会経済発展への悪影響を最小限に抑えるよう、多くの政策を適時に採用し、解決策を一斉に実施するよう指示した。抜本的かつ緊密な指示と管理を伴う適切な政策は、物価上昇圧力を大幅に緩和し、企業活動と国民生活を安定させるのに役立った。

2022 年の平均コアインフレ率は、2021 年の平均値と比較して 2.59%上昇した。2022 年のヘッドラインインフレ率の平均値はコアインフレ率の平均値を上回ったが、これは主に食品、ガソリン、ガス価格の上昇による物価変動を反映している。

6. 社会的パフォーマンス

2022 年のベトナムの平均人口は 9,946 万人であった。人口の質が向上し[(訳注)]、出生率は 2018 年から 2022 年の期間で最低水準まで低下した[6]。また、政府の社会経済回復・発展プログラムが効果を発揮し、労働市場にプラスの回復をもたらした。

2022 年の平均人口推計値は 9,946 万人で、前年比 0.97%増の 95 万 7,300 万人の増加となった。そのうち都市人口は 3,740 万人、農村人口は 6,210 万人で、それぞれ総人口の 37.55%、62.45%を占めた。男性人口は 4,960 万人、女性人口は 4,986 万人で、それぞれ総人口の 49.87%、50.13%であった。2022 年の人口性比は女性 100 人当たり男性 99.5 人であった。2022 年の 15 歳以上の労働力人口は 5,170 万人で、2021 年に比べ 114 万 4,400 人増加した。経済活動を行う各部門で働く 15 歳以上の労働者は 5,060 万人で、153 万 2,700 人の増加となった。

[(訳注)] 原文では "population quality" という表現が使用されている。この表現は一般的に教育水準、医療へのアクセス、生活水準などの社会発展指標の改善を指す可能性があるが、具体的な内容は原文からは明確ではない。

[6] 2018 年から 2022 年の期間における合計特殊出生率（子供人口/女性人口）は以下の通りである。2018 年が 2.05、2019 年が 2.09、2020 年が 2.12、2021 年が 2.11 そして 2022 年が 2.01 であった。

2022 年における生産年齢にある労働力の前年比失業率（速報値）は 2.34%で、0.86 パーセントポイントの減少となった。このうち、都市部と農村部の失業率はそれぞれ 2.82%と 2.04%であり、前年同期比でそれぞれ 1.51 パーセントポイントと 0.46 パーセントポイントの減少となった。生産年齢人口の前年比不完全就業率（速報値）は 2.21%で、0.89 パーセントポイント減少した。男性労働者と女性労働者の不完全雇用率はそれぞれ 2.28%と 2.13%で、前年同期比でそれぞれ 0.95 パーセントポイントと 0.81 パーセントポイントの減少となった。

2022 年は経済と国民の生活水準が回復した年となった。人間開発指数は 0.737 に達し、2021年の数値（0.726）を上回った。一人当たりの平均月収は前年比11.1％増の467万VNDで、そのうち都市部は 595 万 VND、農村部は 386 万 VND で、それぞれ 10.3％増、10.8％増となった。六の社会経済地域のうち、東南部は 2022 年の一人当たり平均月収が最も高く（633 万 VND）、北部山岳丘陵地域は最も低かった（317 万 VND）。上位 20％の高所得世帯の一人当たり平均月収は 1,024 万 VND で、下位 20％の低所得世帯の一人当たり平均月収（135 万 VND）の 7.6 倍であった。

富裕層と貧困層の間の所得格差は、所得分配の不平等係数（ジニ係数[7]）に反映された。ベトナムの所得に関するジニ係数は 2022 年に 0.375 であり、2020 年および 2021 年と比較して安定していた。これは、ベトナムの不平等が平均的な水準にあることを示している。最も高いジニ係数を記録した北部山岳丘陵地域と中部高原地域は（それぞれ 0.408 と 0.399）、国内の他の地域と比べて貧困率が高い地域でもある（それぞれ 12.8％と 10.8％）。農村部の不平等は 0.364 で、都市部の 0.354 より高い。紅河デルタ地域はジニ係数が最も低い（0.333）。

Covid-19 の流行に伴い家計支出が引き締められる傾向にあり、特に都市部の世帯でその傾向は顕著であった。2022年の国民一人当たりの月間支出は280万VND近くに達したが、2020 年比で 3.3％縮小した。そのうち、農村部、都市部の一人当たりの月間支出はそれぞれ 250 万 VND（4.6％増）、330 万 VND（13.6％減）に達した。支出構造は前年と比較して大きな変化はなかった。2020 年の一人当たり月間支出に占める生活費の割合は 95％、その他の支出は 5％であった（2020 年の割合はそれぞれ 94％、6％）。

2022 年の多次元貧困基準の貧困世帯の割合は 4.2％で、2021 年比で 0.2 パーセントポイント減少した。そのうち都市部の多次元貧困にある世帯の割合は 1.5％、農村部は 5.9％で、それぞれ 0.3 パーセントポイントの増加、0.6 パーセントポイントの減少となった。六つの

---

[7] ジニ係数は 0 から 1 までの値をとり、ジニ係数が 0 であることは完全平等を表す。逆にジニ係数 1 は完全不平等を意味する。したがって、ジニ係数が高いほど、不平等の程度が高いことを示している。

地域の中で、北部山岳丘陵地域が最も多次元貧困世帯の割合が高く（12.8%）、東南部地域が最も低かった（0.4%）。

社会保障と持続可能な貧困削減には依然として高い関心が払われた。地方当局は貧困世帯の支援に一層力を注いだ。2022 年の受給者に対する支援金、支援品の総額は 14 兆 4,000 億 VND を超えた。具体的には、国家古老者とその親族への支援が 4 兆 7,000 億 VND、貧困世帯および貧困線をわずかに上回る世帯への支援が 2 兆 4,000 億 VND、2021 年 3 月 15 日付政府議定 20/2021/ND-CP 号に基づく社会保護受給者への食糧支援が 2 兆 7,000 億 VND 以上、そして各地方での異常な状況や突発的状況への支援がおよそ 4 兆 6,000 億 VND となった。また社会保険証カードもしくは無料健康診断・治療カードが受給者に配布された。

医療は政府当局の継続的な関心事である。医療サービスへの早期アクセスを提供するため、オンライン診察・治療相談プラットフォームが省・県レベルの医療施設に接続された。政府当局は、ワクチン、医薬品、生物学的製剤の国内研究、技術移転、生産を奨励した。

政府当局は、民族、宗教、信仰、高齢者、子ども、家族、男女平等、女性の地位向上に関する政策に引き続き注意を払った。また競技スポーツにおいても目覚ましい成果をおさめた[8]。

要約すると、世界経済と政治が異常な変動を見せ、様々な課題に直面する中で、ベトナムの社会経済は 2022 年に顕著な成果をあげた。これは政府機関全体が一体となって取り組み、政府と首相が強力な指導力を発揮して、中央から地方に至る行政機関、企業、そして国民一人一人が努力を重ねた結果であった。ベトナムの GDP 成長率（速報値）は 8.02%であり、これは近隣地域や世界における他の国々と比べても高いランクであった。マクロ経済は安定し、インフレは適切な水準に抑制された。必需品の需給は維持された。財の消費と輸出は増加を記録した。農林漁業部門は安定した成長率を維持し、生産再編と製品品質向上プログラムの有効性が確認され、国民への食料と必需品の供給が確保され、輸出が増加した。製造業は引き続き経済成長の促進に重要な役割を果たした。公共投資の支出は大幅に改善され、社会保障は政府当局の関心を集めた。2023 年はベトナムの経済と社会は多くの課題に直面し、高度に開放されたベトナムの経済は、分野横断的な問題の影響を受けるだろう。一方、経済、政治、軍事、疾病、自然災害の急速かつ予測不可能な変化とともに、世界経済にとって不況と不安定が迫り来る脅威となっている。2023 年の社会経済開発目標を達成するため、政府、各省庁、地方政府は適切かつ効果的な政策と解決策を講じ、今後数年間の力強い発展の勢いを生み出すことが求められている。

---

[8] ベトナムフットサル代表チームは 2021 年 FIFA フットサルワールドカップのベスト 16 に進出した。ベトナムサッカー男子代表チームは 2022 年 FIFA ワールドカップ（AFC）予選に出場、そしてベトナムサッカー女子代表チームは 2022 年 AFC 女子アジアカップに出場した。